

## 藩校鳴鳳館跡

天明5年（1785年）七代藩主就馴が、政務を司る御蔵本に鳴鳳館を建てた。創設に尽力したのは、執政の奈古屋蔵人である。

館の名前は、福岡の亀井南冥に頼んで付けられ、集められた書籍は、三代藩主元次以来、蓄積したもので、当時としては最も完備した内容を誇っていた。八代藩主広鎮の時、桜馬場に移築した。

## 旧藩鐘楼跡

藩政時代に鐘楼があり、毎日鐘をついて時刻を知らせていた。明六ツ（午前6時）・暮六ツ（午後6時）・昼についていたという。

鐘楼があるので、この辺りが鐘楼丁という地名になった。「おやつ」は、八ツの刻（2時ごろ）に食べていた軽食が、そのまま子供のお菓子になった。



## 御用窯跡

昭和57年12月27日に、徳山藩の御用窯らしい跡が見つかった。藩政時代に庄屋が土地の様子を藩に報告した「防長地下上申」という文献によると、「御茶碗窯、東北山にあり」と記されていることから、当時の東北山は、現在の蓮ヶ浴の東側に当たるので、この一帯を調査したところ、西向き斜面の段々畑から、窯の内部の物らしい焼土一個、焼けた煉瓦、土器片二個が発見された。



御用窯跡  
(西金剛山)

## 善宗寺山練兵場跡

毛利藩はイギリス・フランス・オランダの連合軍に下関の戦で敗北したので、洋式の訓練と隊制を改革する必要を感じ、身分を問わず、農民も加えて本人の力量に応じた、志願による奇兵隊をつくった。徳山藩でも山崎隊という奇兵隊をつくり、その練兵場がこの地につくられた。廃藩後、練兵場跡に富田の善宗寺を移転する準備が進められたが、取やめになってそのまま放置されていた。

その後、競馬場や射撃場に使用し、日露戦争後は畑地に造成して耕作し、昭和20年代になって一時期、牛の改良試験場に使用されていたが、昭和26年に養護老人ホーム岐山寮が建てられた。